

平成 22 年 11 月 1 日

第 5 回ライフイノベーション WG での提案の要旨
(10 月 28 日(木)開催)

社会福祉法人プロップ・ステーション
理事長 竹中ナミ

本日の議論の中、検討の視点として加えるべき内容の提案をしました。
個別具体の法律に関する提案ではありませんので、取り扱いについては事務局
でご検討頂ければと思います。

就業を含めた消費者目線に

当WGが「安全・安心と国民の利便性の向上」と、その結果としての「我が国
経済の成長」を両立させる意思を持って議論されるものである以上、医療であ
れ、介護であれ、それを受けた人、あるいは受けつつある人が、自らの個性と
能力を生かして社会参画することや就業することを抜きにして議論を進めるこ
とは、画竜点睛を欠くものとなります。

人は介護や医療を受けるために存在するのではなく、持てる力を発揮するた
めに医療や介護を受ける存在である、という視点を欠かしてはならないと思
います。

プロップ・ステーションでは、20 年にわたりチャレンジド(障害のある人の可
能性に着目した呼称)が、医療や介護を受けながらも ICT などを駆使して就業
できる社会システムの創造をめざして活動してきました。

その結果、在宅で介護を受けながら、あるいは施設や医療機関のベッドの上
で就業するチャレンジドが多数存在する時代を迎えました。

以上のことから、下記の事柄を「新たな検討の視点」として提起いたします。

- ・チャレンジドの生活する場（家庭、学校、施設、医療機関等）の、ICT設備の整備
- ・チャレンジドを、社会参画や就業に繋げるための車いすシーティングの導入～既存の「車いす指定業者制度」の見直し 完全なシーティング技術を持つ事業者のみを選定する制度改革～
- ・介護事業者、医療機関、車いすや補装具等の支援機器、をユーザーが選択できる情報公開システムの整備
- ・家庭、医療・介護機関、教育機関、就業の場が情報交換し、連携できる仕組みの創造
- ・障害者法定雇用率のみにとられない、多様な働き方を促す制度の確立～アウトソーシング率の導入や、独立系事業を目指す人への支援策など～